

平成24年度放射線安全取扱部会年次大会 (第53回放射線管理研修会)のお知らせ(5)

平成24年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成24年度放射線安全取扱部会年次大会は、中国・四国支部が担当し準備を進めており、松山市で開催します。昨年は、東北支部が担当され、東日本大震災の影響を受けた中で大変すばらしい年次大会を開催されました。緊張感を持って開催された前回の大会を、今回どのように引き継いで開催すべきかは、私たち実行委員に今回の大会へ真摯に向き合わせることになりましたが、それと同時に私たちの発想をがんにがらめにしてしまうことになりました。すなわち、最初は福島第一原子力発電所事故にとらわれすぎておりました。

東北支部の私たちの仲間は、大変厳しい中、本務である自身の放射線施設の管理にとどまらず、一般の方のために大変尽力をされております。そのような中で、体調を崩された方もおられます。このような状況下、温暖な気候の松山市で開催するのは、毎日忙しくされている方の骨休みになれると考えられるようになり、開催する意義も私たちなりに理解できるようになりました。私たちの中の迷いが吹っ切れて、私たちの思いを込めたプログラムをご案内できるようになりました。

今回の大会でも様々な内容を取扱いますが、福島第一原子力発電所事故への対応は依然重要です。既に私たち放射線取扱主任者や安全管理担当者は、それぞれ何らかの方法で福島第一原子力発電所事故に対応してきました。そのような私たちの思いと呼応することから、坂村真民

の詩の中から「念ずれば花ひらく」をメインテーマとしました。坂村真民は熊本県で生まれ、愛媛県で高校の国語教員をしながら詩を作り続けてきました。恵まれた子供時代を過ごせませんでした。そのような中で教師になり、前記のような言葉が生まれました。「念ずれば花ひらく」のは、個人の思いなのか、それが集まったものなのかは分かりません。ただ私たちは、この年次大会で部会として力が結集できるよう、準備を進めています。

1日目は最初に文部科学省による特別講演と、福島第一原子力発電所事故からの復興を願うシンポジウム、最後に一般公開型特別講演として、メインテーマの「念ずれば花ひらく」の作者に関する講演を予定しています。2日目は、まず放射線教育に関する特別講演、その後一般の方への放射線教育に関するシンポジウム、最後に分子イメージングに関するシンポジウムを予定しています。

実行委員一同、全力で取り組んでおりますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

年次大会概要

○開催日：平成24年11月8日(木)、9日(金)

○会場：松山市総合コミュニティセンター
(<http://www.cul-spo.or.jp/comcen/>)

松山市湊町7-5

(JR松山駅より徒歩10分)

主任者 コーナー

○メインテーマ：念ずれば花ひらく

プログラム概要（予定）

【11月8日(木)】(1日目)

- 9:00～ 参加受付
10:00～11:00 開会・部会総会
11:00～12:00 特別講演Ⅰ「放射線安全行政の現状」(仮題)
12:00～14:00 休憩
ポスター発表・相談コーナー
14:00～16:35 シンポジウムⅠ「福島原子力発電所事故からの復興」
16:45～17:45 特別講演Ⅱ「“念ずれば花ひらく”の詩人坂村真民の人生と魅力について」

18:00～20:00 交流会

【11月9日(金)】(2日目)

- 9:00～ 参加受付
9:30～10:30 特別講演Ⅲ「福島原子力発電所事故後の放射線教育の必要性について」(仮題)
10:40～12:10 シンポジウムⅡ「一般の方への放射線教育」
12:10～13:20 休憩
13:20～14:40 シンポジウムⅢ「分子イメージング」
14:40～15:00 次回大会紹介、アピール採択、閉会

(機器展示及びポスター展示は両日とも行います。)

特別講演

- *特別講演Ⅰ「放射線安全行政の現状」(仮題)
南山力生氏(文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室)
*特別講演Ⅱ(一般公開)「“念ずれば花ひら

く”の詩人坂村真民の人生と魅力について」

西澤孝一氏(坂村真民記念館館長)

◆講演内容：

昨年の東日本大震災は、日本人の生き方とその価値観に大きな影響を与え、自分自身の生きる拠り所となるものを見つけ出し、本当の豊かさとは何かを真剣に考える人が増えてきている。私たち、一人一人が、自分の生き方を見つめ直し、新たな時代に向かって生きてゆくことを考えるときに、そのきっかけを作ってくれるヒントが、坂村真民の詩とその生き方にあると思う。

1. 坂村真民の人生

坂村真民の97年間の人生を簡単に振り返る。

2. 坂村真民の詩の魅力

(1) 真民詩の中で一番多いのが、家族を詠った詩。「三人の子に」、「飯台」、「あの時のことを」。

(2) 人間としていかに生きるか、人生をどう生きるかを探求し続け、辛い悲しい体験を乗り越えて、前向きに生きることを求め続けた詩人。「六魚庵箴言」、「身軽」、「大事なこと」。

(3) 真民の求める生き方を、自分自身が実践するなかで詩として残している。「尊いのは足の裏である」、「あとから来る者のために」、「時」。

(4) 人はどんなに悲しくても、苦しくても生きなければならないというメッセージ。「念ずれば花ひらく」、「鳥は飛ばねばならぬ」、「タンポポ魂」。

3. 坂村真民記念館について

*特別講演Ⅲ「福島原子力発電所事故後の放射線教育の必要性について」(仮題)

有馬朗人氏(日本アイソトープ協会会長)

◆講演内容：

次のような観点から講演依頼を行いました。放射線教育の必要性に関して、おそらくこれ

までは、地球の温暖化等を考慮して火力ではなく原子力という観点から説明されてきたと思います。しかしながら昨年の福島第一原子力発電所事故を受けて、その必要性は変わってきたと考えています。今回の講演では、放射線教育フォーラムなどでの放射線教育の実践例、また実践した際に見えてきた問題点と、その問題点を克服して今後どのように放射線教育を行うべきか、学習指導要領の改訂もありましたので、“中学校等の先生に向けての放射線教育が重要である”というような内容を含めてお願いしました。

シンポジウム

*シンポジウムⅠ「福島原子力発電所事故からの復興」

- 1) 福島の除染活動を中心にして (仮題)
實吉敬二氏 (東京工業大学)
- 2) 瓦礫処理 (仮題)
貴田晶子氏 (愛媛大学)
- 3) 医療関係 (仮題)
山本尚幸氏 (放射線災害医療研究所)
- 4) 福島での活動と広島大学リーディングプログラム (仮題)
静間 清氏 (広島大学)

山形大会では、福島第一原子力発電所事故の現状を中心としてシンポジウムが開催されました。私たちは、“復興”を願うシンポジウムとなるよう、シンポジウム「福島原子力発電所事故からの復興」を開催します。パネルディスカッションでは、福島原子力発電所事故からの復興に向けて放射線安全取扱部会ができることを探りたいと思います。

*シンポジウムⅡ「一般の方への放射線教育」

- 1) 一般の方への放射線教育の経験から (仮題)
馬場 護氏 (東北大学)

- 2) 三朝温泉を利用した放射線教育や公開講座等の経験から (仮題)

中村麻利子氏 (鳥取大学)

- 3) 放射線の初等中等教育に対する日本アイソトープ協会の活動 (仮題)

須藤幸雄氏 (日本アイソトープ協会)

前大会でのシンポジウムでは放射線業務従事者に対する教育訓練が取り上げられましたが、本大会では一般の方への教育も重要なテーマと考えております。学習指導要領が改訂され、中学校では約30年ぶりに理科でエネルギー資源の一環として放射線の性質やその利用について学習指導を行うことになりました。放射線について初めて教える先生方も多いと考えられ、先生方への支援も私たちができることです。このように放射線事業所の安全管理にとどまらず、事業所の外での専門家としての対応に関係した内容を盛り込んだ「一般の方への放射線教育」のシンポジウムです。パネルディスカッションでは、一般の方への放射線教育に対して放射線安全取扱部会ができることを探りたいと思います。

*シンポジウムⅢ「分子イメージング」

- 1) 分子イメージングに関する放射線教育プログラム (仮題)
久保直樹氏 (北海道大学)
- 2) 感染症分子イメージングセンターの立ち上げ (仮題)
松田尚樹氏 (長崎大学)
- 3) 動物用PET/CT施設の運営と放射線安全管理 (仮題)
三好弘一氏 (徳島大学)
- 4) 主任者から見た小型サイクロトロンを有する施設の放射線安全管理 (仮題)
小野俊朗氏 (岡山大学)

最後のシンポジウムは、私たちの放射線施設の未来を考えるシンポジウムとしたいと考えて

主任者 コーナー

います。非密封放射性同位元素の使用量が減り、廃止を考慮しておられる施設があるかもしれません。そのような状況の中、“分子イメージング”は、施設利用者にとって大変魅力があります。そして私たちの施設にとっても大変重要な位置付けとなります。この“分子イメージング”のシンポジウムを行います。

ポスター発表の要旨提出

○要旨提出期限：9月3日(月)

○発表要旨の原稿作成要領：

A4判縦で図表を含めて2枚以内で作成ください。書式は1行36文字、1ページ35行、文字の大きさは12ポイント、余白は上下左右ともに30mmとします。要旨原稿は図表も含めてワープロ原稿として、事務局にE-mailで送信ください。

【連絡先】

○放射線安全取扱部会事務局

日本アイソトープ協会学術・出版課

☎113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45

☎03-5395-8081 FAX03-5395-8053

E-mail gakujutsu@jrias.or.jp

相談コーナー

日頃の放射線管理業務での疑問や困りごとなどについて、ご相談をお受けします。相談員には法令検討委員会や各支部のベテランの方にお願ひする予定です。

交流会

交流会は大会会場である松山市総合コミュニティセンター内で開催します。現在、様々な計

画を進めております。参加された皆様の交流を深める絶好の機会です。多くの方の参加をお待ちしております。

その他

前記のプログラムのほか、機器展示や書籍コーナーを設ける予定です。

ようこそ松山市へ

松山市へは、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、鹿児島から航空機を利用できます。もちろん、各地からJR、バス、船も利用できます。会場はJR松山駅の近くに位置しており、松山市内にはビジネスホテルが多数あります。

会員の皆様はこの年次大会やほかの学会等に参加されていることと思います。当然それぞれの会場で発表し、そして最新の情報を得るのが目的ですが、それと同時にその街を楽しんでいると思います。松山市で開催するのは、もちろん昼間は会場で情報収集し、議論していただきますが、夜や大会終了後は穏やかな瀬戸内の秋も楽しんでいただき、休養をとっていただきたいという思いがあります。松山市では、瀬戸内の味が楽しめます。松山城、道後温泉、正岡子規、坊ちゃん、坂の上の雲など、歴史と文化にも触れられます。ぜひ、この機会に松山市を楽しんでください。

大会のホームページを作成しています。大会の詳細をはじめ有用な情報を順次掲載していますので、随時次のホームページをチェックしてください。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jria2012/>

多くの方の参加をお待ちしています。